

HIV 抗体検査受検者の特性と 感染判明後の受診行動についての自信の関連要因

研究協力者：塩野徳史、佐々木由理（名古屋市立大学看護学部）

研究代表者：市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学看護学部）、伊藤俊広（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）、内海眞（独立行政法人国立病院機構東名古屋病院）、鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）、山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）、健山正男（琉球大学大学院医学研究科）

研究要旨

受検者の社会的な背景の違いを踏まえ、HIV 陽性告知後の受診行動に関連する要因を明らかにすることを目的とした。調査方法は保健所の HIV 抗体検査受検者を対象とした無記名自記式質問紙調査とし、2013 年 1 月から 9 月に、宮城県、東京都、神奈川県、千葉県、愛知県、大阪府、福岡県、沖縄県の 8 都府県 78 保健所で実施した。有効回答者を性別と生涯の性交相手の性別、過去 6 ヶ月間の金銭を介した性交経験によって 7 群に分類し、基本属性、HIV 感染や HIV 抗体検査に関する知識、HIV 感染に関する意識や相談可能性、性感染症既往および予防行動の項目別に、受診に対する自信を独立変数とした単回帰分析を行った。次に単回帰分析で有意差のみられた項目について多変量解析(多重ロジスティック回帰分析)を行った。統計的有意水準は 5%未満とした。有効回答者は 13,006 件、有効回収率は 63.4%であった。

多変量解析した結果、受診への自信との関連には、男性受検者では、家族に相談できる・できると思う (OR 2.18)、50 歳以上 (OR 1.52)、相談場所を知っている (OR1.37)、友達に相談できる・できると思う (OR1.29) であった。過去 6 ヶ月間に相手に金銭をはらった性交経験のある男性受検者では、家族に相談できる・できると思う (OR2.39)、50 歳以上 (OR 1.87)、友達に相談できる・できると思う (OR1.70)、相談場所を知っている (OR1.32) であった。同性間の性交経験がある男性受検者では、家族に相談できる・できると思う (OR 2.70)、友達に相談できる・できると思う (OR1.81)、相談場所を知っている (OR1.58)、被扶養者の健康保険加入 (OR0.63)、健康保険未加入 (OR0.54) であった。女性受検者では、家族に相談できる・できると思う (OR 2.14)、友達に相談できる・できると思う (OR1.60)、相談場所を知っている (OR1.27) であった。過去 6 ヶ月間に相手に金銭をもらった性交経験のある女性受検者では、家族に相談できる・できると思う (OR 3.94) であった。

HIV 陽性判明を想定した場合の受診行動への自信には、家族や周囲の友達の支援、相談先などの社会環境の整備が重要である。一方で自分の家族に相談できる・できると思う割合は MSM 受検者 22.3%、SW 利用 MSM 受検者 23.2%、SW 女性受検者 25.9%と他群に比べ極めて低く、家族への相談がしにくいと感じており、そのため周囲の友達の支援や相談先などの社会環境の整備がより重要と考えられる。

A. 研究目的

本研究では、保健所の HIV 抗体検査受検者について HIV 陽性判明後の受診行動に焦点をあて、HIV 陽性判明を想定した場合の受診行動への自信に関連する要因を明らかにすることを目的とした。個別施策層が予防指針において定められている背景には、同性愛者を取りまく社会環境や、性風俗産業における従事者や利用者に関する状況は固有のものであり、HIV 感染に対して脆弱性を有するからである。したがって HIV 陽性判明後の受診行動にも、社会的な背景の違いを考慮する必要があると考えられ、本研究では性行動や金銭を介した性交経験によって対象を分類した上で解析をすすめた。

B. 研究方法

本研究では宮城県、東京都、神奈川県、千葉県、愛知県、大阪府、福岡県、沖縄県の保健所で実施されている HIV 抗体検査の受検者を対象として無記名自記式質問紙調査を実施した。

本調査は、仙台市健康福祉局感染症対策課、東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課、神奈川県保健福祉局、横浜市健康福祉局健康安全課、千葉県健康福祉部疾病対策課、愛知県健康福祉部健康担当局健康対策課、名古屋市健康福祉局健康部保健医療課、大阪府健康医療部保健医療室地域保健感染症課、大阪市保健所感染症対策課、福岡市保健福祉局保健予防課、沖縄県健康福祉保健部健康増進課を通じて保健所所長会などで 8 都府県にある全保健所に調査の趣旨を説明し、参加協力を依頼した。依頼時には受検者個人が特定されることを配慮し、1 施設の 1 ヶ月間の HIV 検査受検者数が 15 人以上の保健所を対象とすることとした。調査協力の得られた保健所は、宮城県 15 施設中 5 施設、東京都 35 施設中 17 施設、神奈川県 41 施設中 4 施設、千葉県 17 施設中 12 施設、愛知県 31 施設中 16 施設、大

阪府 30 施設中 17 施設、福岡県 25 施設中 3 施設、沖縄県 6 施設中 3 施設の計 76 施設で、2013 年 1 月から 2013 年 9 月まで実施した。

各保健所の担当者から HIV を含む性感染症の検査受検者に受検時に質問紙を配布し、同意の得られた受検者によって記入後自ら回答用封筒に質問紙を密封し、各保健所に設置された回収箱に投函する方法とし、個人が特定されないよう配慮した。通常検査、即日検査のいずれの場合も検査結果が返却される前に質問紙を記入することを依頼した。集められた質問紙は毎月月末に各保健所で回収され、調査事務局へ密封したまま郵送することとした。

質問項目は年齢、居住地、性別、居住形態、婚姻状況、健康保険の加入状況、性交経験、生涯における性交相手の性別、過去 6 ヶ月間の金銭を介した性交経験、周囲の HIV 感染者の存在認識、過去 6 ヶ月間の感染不安経験について、HIV 抗体検査受検経験、HIV 感染や HIV 抗体検査に関する知識、周囲の人への HIV や性感染症についての相談可能性、HIV や性感染症について電話相談など相談場所の認知、受診への自信等約 20 問とし、個人を特定する情報は含まなかった。

質問項目と分析方法

分析では年齢を 24 歳以下、25 歳-29 歳、30-34 歳、35-39 歳、40-44 歳、45-49 歳、50 歳以上の 7 区分の年齢層に分類した。居住地については東京都内保健所の受検者では東京都内在住者とそれ以外の都道府県在住者というように該当地域在住者とそれ以外の都道府県在住者の 2 群に分類した。健康保険の加入状況は HIV 感染が判明した後医療機関を受診する際に必要となるが、経済状況などの理由や個別施策層においては健康保険の所持割合が低く、そのことが受診の阻害要因となっている可能性が指摘されている。エイズ対策では検査によって早期発見し早期受診につなげる

ことが重要とされており、検査実施後の保険や受診に関する情報を提供するなど支援体制を構築する必要がある。そこで本研究では健康保険の加入状況について尋ね、健康保険加入者として国民健康保険または職場の健康保険の加入者、家族や親族等の扶養である被扶養者の健康保険の加入者、持っていない(未加入)の3区分にした。

HIV 感染や HIV 抗体検査に関する知識

本研究では、HIV 抗体検査に関する知識として、ウインドウピリオドについて「通常の HIV 検査では、感染から 2~3 ヶ月経過しないと感染しているかどうか分からない(正)」、偽陽性の可能性について「HIV 即日検査や郵送検査キットでは、感染していなくても陽性(感染している)と結果が出ることもある(正)」、確認検査の必要性について「HIV 即日検査や郵送検査キットでは、検査結果を確認するため病院などで再度検査が必要になる場合がある(正)」の3問を尋ね、HIV 感染症に関する知識として重複感染について「性感染症に感染していると、HIV に感染しやすくなる(正)」、服薬治療について「HIV 感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった(正)」の2問を尋ねた。それぞれ選択肢を正しい・誤り・わからないとし、「正答」「誤答・わからない」に2区分した。

HIV 感染に関する意識や相談可能性

日本の一般成人男性を対象とした先行研究では、HIV 抗体検査受検者と未受検者との比較から、HIV 感染者を身近に感じていること、HIV に関する知識を持っていること、検査の利用しやすさが検査行動の促進要因となっていることが示されている。また MSM (Men who have sex with men: 男性と性行為をする男性) における先行研究では、海外の先行研究で周囲のソーシャルネットワークメンバーの行動、

規範、友人間との HIV に関する会話経験が HIV 感染予防行動と関連していることが明らかとなっており、日本でも周囲の HIV 感染者の存在認識や対話経験が HIV 抗体検査の受検意図に関連し、HIV 感染や検査に関する知識、生涯の性感染既往といった本人の体験や感染に関する現実感が受検行動に関連していることが指摘されている。また日本における先行研究では感染不安を意識して受検した人では、不安のない人に比べ HIV 陽性判明率が高いことが報告されている。したがって受検者における特性として HIV 感染に関する意識の把握は必要であり、本研究では自分自身の HIV 感染への不安を4件法で尋ねた他、周囲の HIV 感染者の存在認識について5件法で尋ねた。分析では、自分自身の HIV 感染への不安については「まったくなかった・あまりなかった」「よくあった・時々あった」の2区分に、「いない・いないと思う」「わからない」「いる・いると思う」の3区分した。

また回答者本人が HIV や性感染症について困ったときや不安なとき、自分の家族と身近な友達のそれぞれについて相談できるかを5件法で尋ね、分析では「できない・できないと思う・わからない」「できる・できると思う」の2区分とした。

性行動について

性行動における予防行動として生涯における性交相手の性別、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験の他に過去6ヶ月間の膣性交または肛門性交におけるコンドーム使用状況を尋ねた。選択肢は、恋人や夫などの特定相手の男性、特定以外の男性、恋人や妻などの特定相手の女性、特定以外の女性別に「必ず使った、使うことが多かった、五分五分の割合で使った、使わないことが多かった、全く使わなかった」の5件法とし、必ず使ったと回答した人を常用、それ以外の回答を非常用として分類した。これに過去6ヶ月間に膣性交また

は肛門性交をしていない、または選択肢の相手と性行為をしていない場合は「過去6ヶ月間に性交経験なし」と3区分として分析した。

分析対象

本研究では性行動や金銭を介した性交経験について以下のように定義し対象を分類した。

性行動についてはMSMを「これまでに同性間性的接触を有した男性」と定義し、性別の他に、これまでに性行為をした相手の性別について尋ねた。選択肢は、性別では男性、女性、その他とし、性行為をした相手の性別は男性のみ、女性のみ、男性と女性の両方とした。分析ではこれまでに男性もしくは男性と女性の両方と性交経験のあった男性をMSM、これまでに女性もしくは男性と女性の両方と性交経験のあった女性をWSW (Women who have sex with women: 女性と性行為をする女性) として分類した。

性風俗産業の従事者及び利用者については過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験および過去6ヶ月間にお金をはらった性交経験について尋ねた。1999年に日本で実施された全国調査でも同様の質問項目が設けられている。日本における先行研究ではエイズ対策において、こうした金銭を介した性行為にはスティグマや差別が絡んでおり、サービスの受益者や雇用主との関係性を視野にいたした対策が必要であることが指摘されている。またソープランドやファッションヘルス、援助交際など業種や形態、サービスとしての性行為の内容など様々な性風俗産業が日本では確認されており、金銭を介した性行為には全ての性風俗産業が含まれていると考えられる。本研究においても過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験を性風俗産業従事経験（以下、SW ; Sex Worker）とし、過去6ヶ月間にお金をはらった性交経験を性風俗産業利用経験（以下、SW利用またはSWU ; Sex Work User）とした。なお、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験と

表記する場合にはお金をもらった性交経験とはらった性交経験のいずれかの経験を指している。

本研究では社会的な背景の違いを考慮し、性別と生涯の性交相手の性別によって性行動を分類した後、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験によって回答者を16群に分類した。そのうち解析可能な有効回答を得た、①生涯の性交相手が異性のみで、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験のない男性（以下、男性受検者）、②生涯の性交相手が異性のみで、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はないが、お金をはらった性交経験はある男性（以下、SW利用男性受検者）、③生涯の性交相手が同性または両方で、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験のない男性（以下、MSM受検者）、④生涯の性交相手が同性または両方で、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はないが、お金をはらった性交経験はある男性（以下、SW利用MSM男性受検者）、⑤生涯の性交相手が異性のみで、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験のない女性（以下、女性受検者）、⑥生涯の性交相手が異性のみで、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はあるが、お金をはらった性交経験はない女性（以下、SW女性受検者）、⑦生涯の性交相手が同性または両方であった女性（以下、WSW受検者）の7群について分析を進めた。（図1）

統計分析

無回答を除き有効回答であった受検者7群の特性を把握するために、男性受検者とSW利用男性受検者、MSM受検者とSW利用MSM受検者、女性受検者とSW女性受検者、女性受検者とWSW受検者、男性受検者とMSM受検者、SW利用男性受検者とSW利用MSM受検者の各2群間でカイ2乗検定を用いて比較した。

本調査では受検者本人がHIV陽性判明を想定した場合、受診行動を起こせる自信について、「仮に検査であなたがHIVに感染している

ことがわかったとき、病院に行くことについてどう思いますか?」という項目を新たに設け、「必ず行く・多分、行けると思う・多分、行けないと思う・絶対行けない」の4件法で尋ねた。分析では「必ず行く」と「多分、行けると思う・多分、行けないと思う・絶対行けない」の2区分とした。

性別と生涯の性交相手の性別、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験によって分類した7群それぞれについて、基本属性、HIV感染やHIV抗体検査に関する知識、HIV感染に関する意識や相談可能性、性感染症既往および予防行動の各項目別に、受診に対する自信を独立変数とした単回帰分析を行った。統計的有意水準は5%未満とした。次に単回帰分析で有意差のみられた項目について多変量解析を行った。多変量解析では多重ロジスティック回帰分析変数減少法を用いた。データの集計および統計処理にはIBM SPSS Statistics 19 (Windows)を用いた。

なお、本研究は質問紙の改定にあたり、名古屋市立大学看護学部倫理委員会より実施の再承認を得ている。(2012年12月19日、ID番号12033)

C. 研究結果

1) HIV抗体検査の実施状況とHIV感染者報告数の概要(表1)

調査協力の得られた保健所における2013年1月から9月までのHIV抗体検査の実施状況は、宮城県866件、東京都4,339件、神奈川県1,796件、千葉県1,270件、愛知県3,913件、大阪府5,592件、福岡県1,288件、沖縄県1,464件であり、陽性判明報告数は宮城県2件(陽性率0.23%)、東京都16件(陽性率0.37%)、神奈川県7件(陽性率0.39%)、千葉県1件(陽性率0.08%)、愛知県12件(陽性率0.31%)、大阪府20件(陽性率0.36%)、福岡県9件(陽性率0.70%)、沖縄県4件(陽性率0.27%)、であった。それぞれ同期間のエ

イズ動向委員会報告の検査件数に本調査の協力保健所の検査件数が占める割合は、宮城県85.2%、東京都51.1%、神奈川県41.3%、千葉県35.6%、愛知県59.8%、大阪府87.5%、福岡県30.8%、沖縄県87.2%であった。累計では8都府県の協力保健所においてHIV抗体検査は20,528件実施されており、同期間のエイズ動向委員会報告の検査件数に占める割合は56.7%であった。

またHIV感染者報告数では、同期間のエイズ動向委員会報告の報告地別HIV感染者報告数に本調査の協力保健所での陽性判明件数が占める割合は宮城県33.3%、東京都6.0%、神奈川県11.5%、千葉県3.4%、愛知県30.8%、大阪府16.9%、福岡県26.5%、沖縄県44.4%であった。累計では8都府県協力保健所の2013年1月から9月のHIV抗体検査による陽性判明件数は71件であり、同期間のエイズ動向委員会報告の報告地別HIV感染者報告数に占める割合は12.7%であった。

8都府県の保健所受検者における質問紙の有効回収数は宮城県629件(有効回収率72.6%)、東京都2,738件(有効回収率63.1%)、神奈川県1,473件(有効回収率82.0%)、千葉県866件(有効回収率68.2%)、愛知県2,590件(有効回収率66.2%)、大阪府3,471件(有効回収率62.1%)、神奈川県751件(有効回収率58.3%)、沖縄県488件(有効回収率33.3%)であった。累計では有効回収数は13,006件であり、有効回収率は63.4%であった。有効回答者(n=13,006)に占める8都府県の保健所HIV抗体検査受検者の内訳は、大阪府で最も多く26.7%、次いで東京都21.1%、愛知県19.9%、神奈川県11.3%、千葉県6.7%、福岡県5.8%、宮城県4.8%、沖縄県3.8%であった。また先行研究で明らかとなっている受検者の特性のうち年齢や受検経験について、有効回答者全体の属性として8都府県別に表1に示した。

2) 性別と生涯の性交相手の性別、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験による分類 (図1)

有効回答であった13,006人のうち、男性は8,622人(66.3%)であり、女性は4,361人(33.5%)であった。性別について「その他」と回答した人は23人(0.2%)であり、そのうち17人はトランスジェンダーや性同一性障害と回答していた。

生涯の性交相手の性別が異性のみであった男性は6,782人(男性の78.7%、全体の52.1%)であり、このうち過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験がある人は49人(男性の0.6%、全体の0.4%)であった。生涯の性交相手が異性のみであり、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はなく、かつお金をはらった性交経験もない男性(男性受検者)は3,388人(男性の39.3%、全体の26.0%)であった。また生涯の性交相手が異性のみで、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はないが、お金をはらった性交経験はある男性(SW利用男性受検者)は3,345人(男性の38.8%、全体の25.7%)であった。

生涯の性交相手の性別が同性または両方であった男性は1,840人(男性の21.3%、全体の14.1%)であった。過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験がある人は110人(男性の1.3%、全体の0.8%)であり、このうち過去6ヶ月間にお金をはらった性交経験のある人が20人であった。生涯の性交相手が同性または両方で、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はなく、かつお金をはらった性交経験もない男性(MSM受検者)は1,471人(男性の17.1%、全体の11.3%)であった。また生涯の性交相手が同性または両方で、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はないが、お金をはらった性交経験はある男性(SW利用MSM受検者)は259人(男性の3.0%、全体の2.0%)であった。

生涯の性交相手の性別が異性のみであった女性は4,175人(女性の95.7%、全体の32.1%)

であった。このうち、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はなく、かつお金をはらった性交経験もない女性(女性受検者)は3,731人(女性の85.6%、全体の28.7%)であった。また生涯の性交相手が異性のみで、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はあるが、お金をはらった性交経験はない女性(SW女性受検者)は425人(女性の9.7%、全体の3.3%)であった。生涯の性交相手の性別が同性または両方であった女性(WSW受検者)は141人(女性の3.2%、全体の1.1%)であった。このうち、過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験がある人は42人(女性の1.0%、全体の0.3%)であり、過去6ヶ月間にお金をはらった性交経験がある人は6人であった。

3) 性別と生涯の性交相手の性別、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験による6群の特性 (表2)

男性受検者(n=3,388)の平均年齢±標準偏差は34.1±11.0、最少年齢15歳、最高年齢78歳であり、SW利用男性受検者(n=3,345)の平均年齢±標準偏差は36.1±11.1、最少年齢18歳、最高年齢82歳であった。SW利用男性受検者は男性受検者に比べ、同居割合や結婚している割合が高く、HIV抗体検査受検割合が高かった。また知識についても、SW利用男性受検者は男性受検者に比べ、ウインドウピリオドや重複感染、服薬治療についての正答割合は高かった。周囲のHIV感染者の有無では「いる・いると思う」割合が、SW利用男性受検者は男性受検者に比べ低く、自分の家族や身近な友達にHIVや性感染症に関して相談「できる・できると思う」割合も低かった。過去6ヶ月間にHIV感染の不安について「よくあった・時々あった」割合は、SW利用男性受検者は男性受検者に比べ極めて高く、性感染症既往歴も高かった。HIV陽性判明を想定した場合の受診行動への自信について「必ず行く」と回答する割合は、SW利用男性受検者

は男性受検者に比べ低かった。

MSM 受検者 (n=1,471) の平均年齢±標準偏差は 33.3±10.3、最少年齢 16 歳、最高年齢 74 歳であり、SW 利用 MSM 受検者 (n=259) の平均年齢±標準偏差は 35.6±10.5、最少年齢 16 歳、最高年齢 70 歳であった。SW 利用 MSM 受検者は MSM 受検者に比べ、結婚している割合が高く、HIV 抗体検査受検割合は低かった。知識の正答割合について SW 利用 MSM 受検者と MSM 受検者の間で有意差はみられなかった。周囲の HIV 感染者の有無では「いる・いると思う」割合が、SW 利用 MSM 受検者は MSM 受検者に比べ低く、身近な友達に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」割合も低かった。自分の家族に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」割合は、SW 利用 MSM 受検者と MSM 受検者の間で有意差はみられなかった。過去 6 ヶ月間に HIV 感染の不安について「よくあった・時々あった」割合は、SW 利用 MSM 受検者は MSM 受検者に比べ高かった。性感染症既往歴は、SW 利用 MSM 受検者と MSM 受検者の間で有意差はみられなかった。HIV 陽性判明を想定した場合の受診行動への自信について「必ず行く」と回答する割合も、SW 利用 MSM 受検者は MSM 受検者に比べ高かった。

女性受検者 (n=3,731) の平均年齢±標準偏差は 29.3±8.3、最少年齢 13 歳、最高年齢 73 歳であり、SW 女性受検者 (n=425) の平均年齢±標準偏差は 27.3±8.0、最少年齢 15 歳、最高年齢 57 歳、WSW 受検者 (n=141) の平均年齢±標準偏差は 29.0±8.3、最少年齢 16 歳、最高年齢 66 歳であった。SW 女性受検者は女性受検者に比べ、一人暮らしの割合が高く、結婚している割合は低かった。また健康保険に未加入の割合が高く、HIV 抗体検査受検割合が高かった。知識については重複感染についての正答割合のみ有意に高かった。周囲の HIV 感染者の有無では「いる・いると思う」割合が、SW 女性受検者は女性受検者に比べ高

く、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」割合は極めて低かった。過去 6 ヶ月間に HIV 感染の不安について「よくあった・時々あった」割合は、SW 女性受検者は女性受検者に比べ極めて高く、性感染症既往歴も高かった。HIV 陽性判明を想定した場合の受診行動への自信について「必ず行く」と回答する割合は、SW 女性受検者は女性受検者に比べ低かった。

また WSW 受検者は女性受検者に比べ結婚している割合は低く、HIV 抗体検査受検割合が高かった。知識については服薬治療についての正答割合のみ有意に高かった。周囲の HIV 感染者の有無では「いる・いると思う」割合が、WSW 受検者は女性受検者に比べ高く、身近な友達に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」割合は高かった。HIV 陽性判明を想定した場合の受診行動への自信について「必ず行く」と回答する割合は、WSW 受検者は女性受検者に比べ高かった。

4) 男性受検者における「受診に対する自信」との関連要因 (表 3)

男性受検者において、HIV 陽性判明を想定した場合の受診行動への自信を従属変数 (必ず行く=1、多分、行けると思う・多分、行けないと思う・絶対行けない=0) として、単回帰分析によって統計的に有意差がみられた要因について多変量解析を行った。

その結果、男性受検者の受診行動への自信には、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」がもっとも強く影響しており、相談できる・できると思う人は、できない・できないと思う・わからない人に比べ 2.18 倍の odds 比であった (95% 信頼区間、以下 95%CI:1.82-2.61)。次いで 50 歳以上の人が 24 歳以下に比べ 1.52 倍の odds 比であり (95%CI:1.11-2.10)、相談場所を知っている人が 1.37 倍 (95% CI:1.17-1.60)、身近な友達に HIV や性感染症

に関して相談できる・できると思う人が 1.29 倍 (95%CI:1.07-1.55) であった。

5) SW 利用男性受検者における「受診に対する自信」との関連要因 (表 4)

SW 利用男性受検者において、同様に単回帰分析によって統計的に有意差がみられた要因について多変量解析を行った。その結果、SW 利用男性受検者の受診行動への自信においても、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」がもっとも強く影響しており、相談できる・できると思う人は、できない・できないと思う・わからない人に比べ 2.39 倍の odds 比であった (95% CI:1.97-2.89)。次いで 50 歳以上の方が 24 歳以下に比べ 1.87 倍の odds 比であり (95% CI:1.35-2.59)、身近な友達に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思う人が 1.70 倍 (95%CI:1.40-2.06)、相談場所を知っている人が 1.32 倍 (95%CI:1.13-1.54)、特定の女性との過去 6 ヶ月間の性交時に、コンドーム使用が常用であった人は性交経験がなかった人と比べ 1.37 倍 (95%CI:1.09-1.70)、非常用であった人が 1.22 倍 (95%CI:1.03-1.45) であった。

6) MSM 受検者における「受診に対する自信」との関連要因 (表 5)

MSM 受検者において、同様に単回帰分析によって統計的に有意差がみられた要因について多変量解析を行った。その結果、MSM 受検者の受診行動への自信においても、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」がもっとも強く影響しており、相談できる・できると思う人は、できない・できないと思う・わからない人に比べ 2.70 倍の odds 比であった (95%CI:1.92-3.79)。次いで 50 歳以上の方が 24 歳以下に比べ 1.83 倍の odds 比であり (95%CI:1.08-3.13)、身近な友達に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思う

人が 1.81 倍 (95%CI:1.43-2.30)、相談場所を知っている人が 1.58 倍 (95%CI:1.24-2.01)、国民健康保険や職場の健康保険に加入している人に比べ被扶養者の保険に加入している人が 0.63 倍 (95%CI:0.43-0.92)、健康保険に未加入の人が 0.54 倍 (95%CI:0.33-0.91) であった。

7) SW 利用 MSM 受検者における「受診に対する自信」との関連要因 (表 6)

SW 利用 MSM 受検者において、同様に単回帰分析によって統計的に有意差がみられた要因について多変量解析を行った。その結果、SW 利用 MSM 受検者の受診行動への自信においては、自分の身近な友達に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」がもっとも強く影響しており、相談できる・できると思う人は、できない・できないと思う・わからない人に比べ 2.12 倍の odds 比であった (95%CI:1.03-4.36)。次いで一人暮らしの人は同居の人に比べ 2.07 倍の odds 比であった (95%CI:1.07-3.99)、国民健康保険や職場の健康保険に加入している人に比べ被扶養者の保険に加入している人が 0.08 倍 (95% CI:0.01-0.76)、保健所の該当地域外に居住の人が 0.38 倍 (95%CI:0.16-0.90)、特定以外の男性との過去 6 ヶ月間の性交時のコンドーム使用状況について、性交経験なかった人に比べ、常用であった人が 0.34 倍 (95% CI:0.16-0.72) であった。

8) 女性受検者における「受診に対する自信」との関連要因 (表 7)

女性受検者において、同様に単回帰分析によって統計的に有意差がみられた要因について多変量解析を行った。その結果、女性受検者の受診行動への自信には、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」がもっとも強く影響しており、相談できる・できると思う人は、できない・で

きないと思う・わからない人に比べ2.14倍の odds 比であった (95%CI:1.80-2.54)。次いで身近な友達に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思う人が 1.60 倍 (95% CI:1.36-1.89)、相談場所を知っている人が 1.27 倍 (95%CI:1.08-1.50)、服薬治療についての知識の正答であった人が 1.38 倍 (95% CI:1.15-1.65) であった。

9) SW 女性受検者における「受診に対する自信」との関連要因 (表 8)

SW 女性受検者において、同様に単回帰分析によって統計的に有意差がみられた要因について多変量解析を行った。その結果、SW 女性受検者の受診行動への自信には、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」がもっとも強く影響しており、相談できる・できると思う人は、できない・できないと思う・わからない人に比べ 3.94 倍の odds 比であった (95%CI:2.09-7.43)。次いで odds 比としては、相談場所を知っている人が 1.66 倍 (95%CI:1.06-2.60) であった。

10) WSW 受検者における「受診に対する自信」との関連要因 (表 9)

WSW 受検者において、同様に単回帰分析によって統計的に有意差がみられた要因について多変量解析を行った。その結果、WSW 受検者の受診行動への自信には、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談「できる・できると思う」がもっとも強く影響しており、相談できる・できると思う人は、できない・できないと思う・わからない人に比べ 3.10 倍の odds 比であった (95%CI:1.21-7.95)。

D. 考察

ここでは本調査は2013年1月から9月まで、8都府県78保健所において実施された。協力保健所における HIV 抗体検査件数は累計で20,528件実施されており、同期間同都府県の

エイズ動向員会報告による検査件数に占める割合は56.7%(千葉県35.6%~大阪府87.5%)であり、有効回収率は63.4%であった。エイズ動向委員会報告による検査件数を母数とすると、本調査で得られた有効回答数(n=13,006)は35.9%にあたる。2001年のHIV抗体検査受検者を対象にした質問紙調査は2001年4月から1年間に33都府県131保健所で4,102件の検査受検者を対象に実施されており、地域や協力施設数、検査件数の規模が異なるが、有効回収率は60.2%とほぼ同じ結果であった。協力保健所は東京都16施設のうち14施設が23区内にあり、仙台市内5施設、名古屋市内13施設、大阪市内3施設、福岡市内3施設など8都府県の中心部に多くある。したがって本研究では8都府県の受検者のうち、中心にある保健所受検者の特性を把握することが可能である。とりわけ有効回答者に占める8都府県の保健所 HIV 抗体検査受検者の内訳は大阪府で最も多く26.7%、次いで東京都21.1%、愛知県19.9%であり、3都市で67.7%を占めていることから都市部の受検者の特性を反映していると考えられる。

保健所の HIV 抗体検査受検者の特性について性別をみると、男性66.3%、女性33.5%、その他0.2%であった。2001年の HIV 抗体検査受検者を対象にした質問紙調査で報告されている受検者の男性割合は61.3%でありほぼ一致している。本研究では性別と生涯の性交相手の性別、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験によって対象を分類したが、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験はなく生涯の性交相手が異性のみであった女性受検者の既婚割合は21.4%と男性受検者の34.0%に比べ低かった。女性は母子感染の予防のために HIV 陽性の妊婦の場合は帝王切開での出産が勧奨されており、妊娠時に HIV 抗体検査受検を促される機会がある。2010年の産婦人科調査における妊婦 HIV スクリーニング検査実施率は全国平均で99.7%と報告されている。

そのため女性が保健所等の HIV 抗体検査を自発的に受検することは少なく、受検者特性では男性割合が高かったと考えられる。

保健所の HIV 抗体検査受検者における過去の受検経験は、全体では再受検者が 44.2%であり、2001 年の HIV 抗体検査受検者を対象にした質問紙調査の 24.9%と比べ 19.3%高い結果であった。

再受検者割合は本研究で分類した群で異なっており、MSM 受検者で 72.5%と最も高く、次いで SW 利用 MSM 受検者 63.3%、WSW 受検者 48.9%、SW 女性受検者 48.7%、SW 利用男性受検者 46.0%、男性受検者 36.0%、女性受検者 35.6%であった。本研究の協力保健所のある地域では、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした CBO による介入活動が 1998 年から行われており、エイズ対策推進事業として 2003 年に東京都新宿区、大阪府でコミュニティセンターが設置され、その後名古屋市（2003 年）、福岡市（2005 年）、仙台市（2009 年）、那覇市（2009 年）にも設置された。こうした活動はゲイ向け商業施設を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を中心に行われており、2010 年の調査では生涯 HIV 抗体検査受検割合は 62.7%と報告されている。一方、成人男性を対象とした質問紙調査では生涯受検割合は 10.5%（2009 年）、12.5%（2010 年-2011 年）であった。MSM 受検者では他の受検者に比べ、HIV 感染症や HIV 抗体検査に関する知識の正答割合も高く、CBO の活動によって MSM の受検行動が促進された結果、他に比べ再受検者割合が高い可能性がある。

しかし保健所の HIV 抗体検査受検者に占める MSM 割合は全体の 14.1%（表 1）であり、MSM 受検者や SW 利用 MSM 受検者の受検行動が全体の再受検者割合の増加に寄与したとは考えにくい。また過去 6 ヶ月間に金銭を介した性交経験をもたない男性受検者の再受検者割合は 36.0%、女性受検者では 35.6%と増加の幅は 10%程度であり、2001 年から再受検者割合が

19.3%増加している背景には、性風俗産業における従事者や利用者における再受検者が増加している可能性が示唆される。

本研究では、男性もしくは男性と女性の両方と生涯に性交経験のあった男性を MSM と、女性もしくは男性と女性の両方と生涯に性交経験のあった女性を WSW と、過去 6 ヶ月間の金銭を介した性交経験をセックスワーク (SW) と定義し、男性受検者、SW 利用男性受検者、MSM 受検者、SW 利用 MSM 受検者、女性受検者、SW 女性受検者、WSW 受検者に分類し、それぞれの群で、受検者本人が HIV 陽性判明を想定した場合の受診行動への自信に関連する要因を明らかにした。

多変量解析の結果、男性受検者の受診行動への自信にもっとも強く影響する要因は、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思うことであり、できない・できないと思う・わからない人に比べ 2.18 倍の odds 比であった (95%CI:1.82-2.61)。相談場所を知っている人、身近な友達に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思うも関連していた。また女性受検者の受診行動への自信においても、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思うことはもっとも強く影響する要因であり、できない・できないと思う・わからない人に比べ 2.14 倍の odds 比であった (95%CI:1.80-2.54)。身近な友達に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思う、相談場所を知っているも関連しており、男性受検者や女性受検者では HIV 陽性判明後の受診行動に関して家族や周囲の社会の支援が重要な要因であることが示された。

過去 6 ヶ月間にお金をはらった性交経験をもつ SW 利用男性受検者の受診行動への自信にも、自分の家族への HIV や性感染症に関する相談可能性 (OR2.39、95%CI:1.97-2.89) や年齢 (OR1.87、95%CI:1.35-2.59) が影響しており、男性受検者での関連要因と同じ傾

向であった。一方で SW 利用男性受検者の受診行動への自信には、特定相手との性交時における過去 6 ヶ月間のコンドーム使用状況との関連もみられ、特定の女性との過去 6 ヶ月間の性交時にコンドーム使用が常用であった人は、性交経験をもたない人に比べ 1.37 倍の odds 比であった (95%CI:1.09-1.70) であった。

過去 6 ヶ月間にお金をもらった性交経験をもつ SW 女性受検者でも、受診行動への自信と関連する要因としては自分の家族への HIV や性感染症に関する相談可能性 (OR3.94、95%CI:2.09-7.43) が最も高かった。

MSM 受検者の受診行動への自信にも、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思うこと (OR2.70、95%CI:1.92-3.79) がもっとも強く影響しており、次いで年齢、身近な友達に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思う、相談場所を知っているであった。MSM 受検者にとって自分の家族には同性のパートナー等も含まれる可能性もあるが、親や兄弟姉妹といった自分の家族や周囲の社会の支援が重要であることは男性受検者や女性受検者と共通していると考えられる。この傾向は WSW 受検者でも同様であり受診行動への自信には、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談できる・できると思うこと (OR3.10、95%CI:1.21-7.95) がもっとも強く影響していた。

しかし MSM 受検者では、HIV や性感染症について自分の家族に相談できる・できると思う割合は 22.3% であり、男性受検者 (43.6%) と比べて極めて低い ($p<0.01$)。同性間の性行為については、住民基本台帳から層化 2 段抽出法で 18 歳から 59 歳の男女 5,000 人を抽出した 1999 年に実施された全国調査で、男性同士のセックスに対しよくないと回答する人の割合が 55.0% から 70.4% であり、年齢が高いほど認容しない傾向であることが報告されている。また、2009 年に 20 歳から 59 歳の成人

男性を対象に実施された質問紙調査では、家族や恋人からのエイズに関する相談に対応したいと回答する人は 74.5% と高い割合であったのに対し、同性愛に関する相談では 52.9% と低い。本研究の結果では MSM 受検者で男性受検者に比べ、家族に相談できる・できると思う割合が有意に低いが、性感染症や HIV 感染症の相談には同性間の性行為についても触れるため、家族や周囲の社会で同性愛に対する認容度が低い環境では相談しにくい状況であると考えられる。そのため MSM 受検者の受診への自身の関連要因としては、自分の家族に HIV や性感染症に関して相談可能性に次ぐ、身近な友人への相談可能性や相談場所の認知がより重要な要因であると考えられる。先行研究では就労成人男性において身近な人が予防することを望むメッセージによって HIV 抗体検査受検行動が促進される可能性を報告しているが、MSM をとりまく社会環境を考慮すると、家族が本人に向けた期待は逆にエイズや性感染症に関して相談しにくくなる環境となる可能性があり、予防啓発を進める場合には考慮する必要があるだろう。

また MSM 受検者の受診行動への自信には、国民健康保険や職場の健康保険加入も影響しており、HIV 陽性判明後の受診行動について「絶対に行く」と回答する割合は、被扶養者の健康保険加入者で 57.4%、未加入者で 58.3% と有意に低かった。MSM 受検者における健康保険未加入割合は 4.9% であり、男性受検者 (2.7%) と比べ高かった ($p<0.01$)。ゲイ向け商業施設利用者を対象とした質問紙調査においてもゲイ・バイセクシュアル男性における健康保険未加入割合は 2.8% ~ 4.6% とほぼ同値であった。HIV 陽性者へのインターネットを利用した調査では、HIV 陽性告知直後に医療費や行政・福祉の情報のニーズが高いが、実際に紙媒体で受け取っていたのは 15.1% にとどまっていることが報告されており、自発的な受診行動には相談先など

の支援情報とともに、健康保険未加入などを想定した社会資源の準備を受検提供者は事前にしておく必要がある。健康保険未加入者への支援は SW 女性受検者についても未加入割合が 8.2%と高く同様のことが考えられる。

E. 結語

受検者本人が HIV 陽性判明を想定した場合の受診行動への自信には、いずれの群においても自分の家族への HIV や性感染症に関する相談可能性等、家族や周囲の社会の支援が重要な要因であることが明らかとなった。一方でエイズ予防指針において個別施策層となっている、男性同性間で性交経験のある男性や、性風俗産業に従事する女性は、自分の家族への相談はしにくい環境であり、周囲の友達の支援や相談先などの社会環境の整備が必要である。

F. 発表論文等

(論文)

1. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM(Men who have sex with men)におけるHIV抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 公衆衛生雑誌, 60(10), 639-650, 2013

(学会発表)

1. Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Yuki Tada: Trends in the incidence of HIV and AIDS by decade of birth among MSM of Japanese nationality, The 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013

2. Daisuke Goto, Satoshi Shiono, Toshio Machi, Tetsuro Onitsuka, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Effectiveness of preventive intervention related to condom use among men who have sex with men (MSM) in the Kinki area, The 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013

3. 牧園祐也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

4. 町登志雄, 後藤大輔, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 岳中美江, 塩野徳史, 市川誠一: MSM向けHIV検査普及プログラム「クリニック検査1000円キャンペーン」広報についての考察, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

5. 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊広, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

6. 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一, 岳中美江, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一: 診療所を窓口としたMSM向けHIV検査普及プログラムの改良に向けた検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

表1 2013年1月-9月におけるHIV抗体検査の実施状況とHIV感染者報告数の概要

	宮城県 (5施設)	東京都 (16施設)	神奈川県 (6施設)	千葉県 (12施設)	愛知県 (16施設)	大阪府 (17施設)	福岡県 (3施設)	沖縄県 (3施設)	合計 (78施設)
HIV抗体検査受検者数									
エイズ動向委員会による報告 ^{*1} (A)	1,017	8,485	4,345	3,570	6,547	6,393	4,178	1,679	36,214
調査協力施設における受検者数(B)	866	4,339	1,796	1,270	3,913	5,592	1,288	1,464	20,528
エイズ発生動向委員会の検査件数報告に占める割合(B/A)	85.2%	51.1%	41.3%	35.6%	59.8%	87.5%	30.8%	87.2%	56.7%
HIV感染者報告数									
エイズ動向委員会による報告 ^{*2} (C)	6	265	61	29	39	118	34	9	561
調査協力施設における陽性判明報告数(D)	2	16	7	1	12	20	9	4	71
エイズ発生動向委員会のHIV感染者報告数に占める割合(D/C)	33.3%	6.0%	11.5%	3.4%	30.8%	16.9%	26.5%	44.4%	12.7%
調査協力施設のHIV抗体検査受検者におけるHIV陽性率(D/B)	0.23%	0.37%	0.39%	0.08%	0.31%	0.36%	0.70%	0.27%	0.35%
質問紙回収数									
回収数	739	3,062	1,686	1,042	2,933	4,026	889	547	14,924
有効回収数	629	2,738	1,473	866	2,590	3,471	751	488	13,006
有効回収率	72.6%	63.1%	82.0%	68.2%	66.2%	62.1%	58.3%	33.3%	63.4%
受検者の属性									
24歳以下の割合	27.0%	22.6%	21.5%	21.5%	19.8%	23.9%	25.3%	23.0%	22.6%
男性割合	61.7%	64.4%	69.2%	64.1%	73.7%	65.4%	56.5%	60.2%	66.3%
MSM ^{*3} 割合	13.0%	13.5%	12.7%	6.2%	16.9%	14.2%	16.0%	20.1%	14.1%
SW ^{*4} 利用割合	24.5%	28.0%	30.5%	28.9%	30.5%	28.6%	24.5%	21.1%	28.3%
SW ^{*4} 割合	6.7%	4.9%	3.1%	4.0%	3.4%	6.5%	6.3%	5.1%	4.9%
初受検者割合	61.0%	56.2%	51.6%	58.8%	55.1%	55.9%	55.4%	57.6%	55.8%

*1 厚生労働省エイズ動向委員会による2013年1月から6月までの保健所等におけるHIV抗体検査件数

http://api-net.jfap.or.jp/status/2013/1308/20130830_kensa.pdf

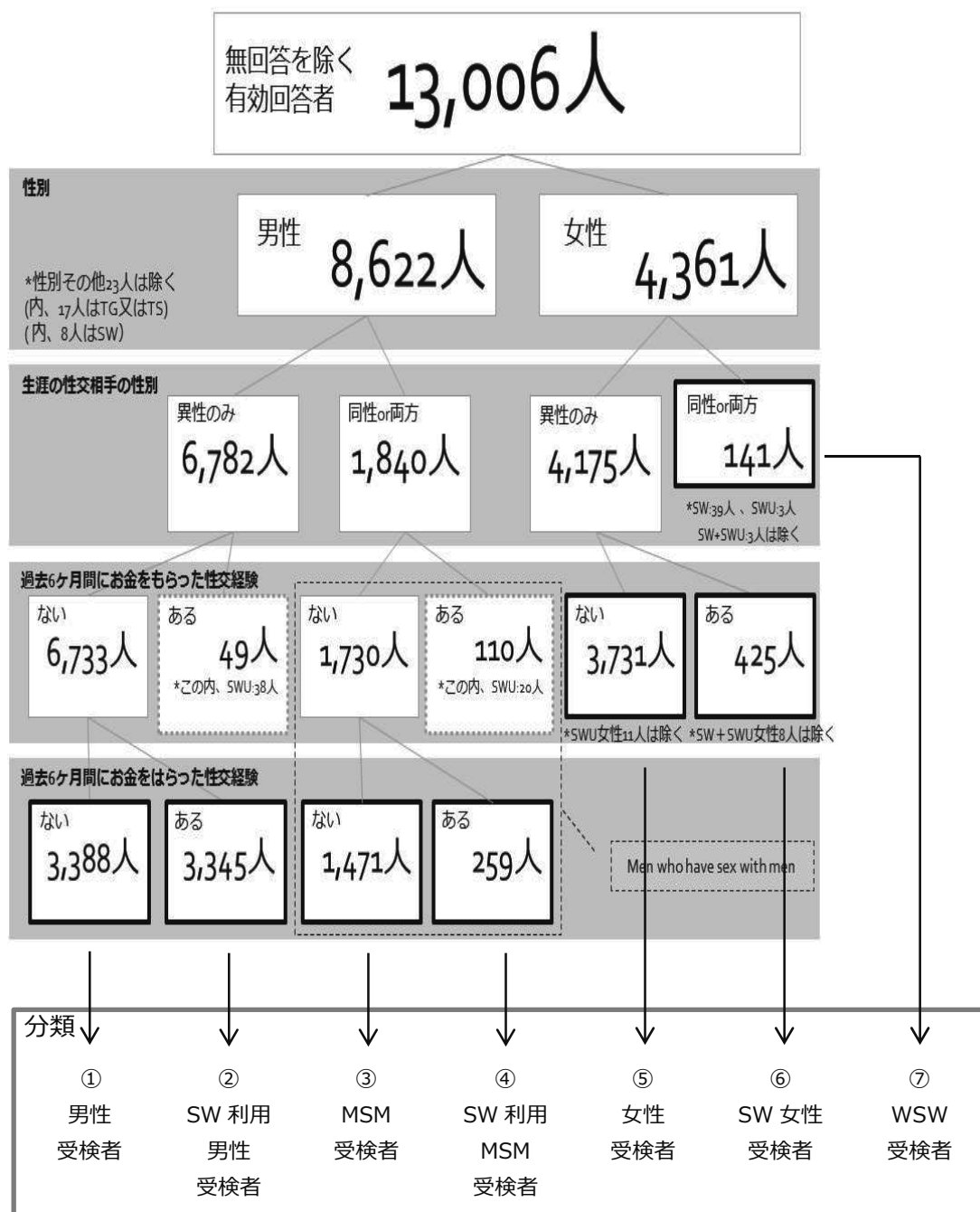
*2 厚生労働省エイズ動向委員会による2013年1月から6月までのHIV感染者及びAIDS患者の都道府県別累積報告状況(表3)

http://api-net.jfap.or.jp/status/2013/1308/20130830_hyo_03.pdf

*3 Men who have sex with men;生涯に男性と、または男性女性両方と性行為をした男性

*4 過去6ヶ月間にお金をもらった性行為をSWと定義した

図1 性別と生涯の性交相手の性別、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験による分類



*性別について「その他」と回答した人にはトランスジェンダーや性同一障害が含まれる。

*過去6ヶ月間にお金をもらった性行為をSWと定義し、SWと表記している。

*過去6ヶ月間にお金をはらった性行為をSW利用と定義し、SWUと表記している。

* MSM ; Men who have sex with men WSW ; Women sex with women

表2 性別と生涯の性交相手の性別、過去6ヶ月間の金銭を介した性交経験による7群の特性

		①男性 受検者 n=3388	②SW利用 男性受検者 n=3345	p値 ¹⁾ ①-②	③MSM 受検者 n=1471	④SW利用 MSM受検者 n=259	p値 ²⁾ ③-④	⑤女性 受検者 n=3731	⑥SW女性 受検者 n=425	⑦WSW 受検者 n=141	p値 ³⁾ ⑤-⑥	p値 ⁴⁾ ⑤-⑦	p値 ⁵⁾ ①-③	p値 ⁶⁾ ②-④
基本属性														
年齢	24歳以下	18.9%	12.3%	<0.01	21.7%	10.8%	<0.01	32.3%	44.2%	39.0%	<0.01	0.43	0.05	0.35
	25-29歳	21.3%	20.2%		20.7%	15.1%		27.7%	25.2%	20.6%				
	30-34歳	19.5%	18.9%		17.5%	22.8%		18.1%	13.9%	17.0%				
	35-39歳	14.9%	17.4%		15.9%	18.5%		9.5%	8.0%	10.6%				
	40-44歳	10.0%	11.2%		11.0%	13.1%		6.8%	3.8%	8.5%				
	45-49歳	6.0%	8.0%		5.5%	7.7%		2.9%	2.8%	2.8%				
居住地	50歳以上	9.5%	12.0%		7.6%	12.0%		2.6%	2.1%	1.4%				
	該当地域(都道府県)	91.0%	89.2%	0.01	89.3%	89.6%	0.88	93.1%	95.1%	95.7%	0.13	0.23	0.06	0.85
居住形態	それ以外の地域	9.0%	10.8%		10.7%	10.4%		6.9%	4.9%	4.3%				
	いいえ	65.3%	67.6%	0.04	53.0%	59.5%	0.06	69.9%	60.0%	66.0%	<0.01	0.32	<0.01	0.01
婚姻状況	はい(1人暮らし)	34.7%	32.4%		47.0%	40.5%		30.1%	40.0%	34.0%				
	結婚していない	66.0%	59.3%	<0.01	92.9%	74.5%	<0.01	78.6%	88.5%	87.2%	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
健康保険加入状況	結婚している	34.0%	40.7%		7.1%	25.5%		21.4%	11.5%	12.8%				
	国民健康保険または職場の健康保険	88.0%	93.4%	<0.01	83.6%	93.4%	<0.01	72.7%	62.4%	67.4%	<0.01	0.32	<0.01	<0.01
	被扶養者の健康保険	9.3%	5.3%		11.5%	2.3%		24.4%	29.4%	28.4%				
HIV抗体検査受検経験	未加入	2.7%	1.3%		4.9%	4.2%		2.9%	8.2%	4.3%				
	ある(再受検)	36.0%	46.0%	<0.01	72.5%	63.3%	<0.01	35.6%	48.7%	48.9%	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	ない(初受検)	64.0%	54.0%		27.5%	36.7%		64.4%	51.3%	51.1%				
HIVや検査に関する知識														
ウインドウペリオドについて	誤答/わからない	15.1%	11.2%	<0.01	9.5%	6.9%	0.19	13.7%	16.5%	6.4%	0.12	0.01	<0.01	0.04
	正答	84.9%	88.8%		90.5%	93.1%		86.3%	83.5%	93.6%				
偽陽性の可能性について	誤答/わからない	45.7%	43.8%	0.10	34.6%	34.7%	0.96	53.1%	57.2%	50.4%	0.11	0.52	<0.01	0.01
	正答	54.3%	56.2%		65.4%	65.3%		46.9%	42.8%	49.6%				
確認検査の必要性について	誤答/わからない	30.0%	29.4%	0.59	20.5%	18.9%	0.57	31.5%	32.7%	26.2%	0.60	0.19	<0.01	<0.01
	正答	70.0%	70.6%		79.5%	81.1%		68.5%	67.3%	73.8%				
重複感染について	誤答/わからない	32.1%	24.3%	<0.01	24.9%	20.5%	0.12	34.7%	22.4%	32.6%	<0.01	0.61	<0.01	0.16
	正答	67.9%	75.7%		75.1%	79.5%		65.3%	77.6%	67.4%				
服薬治療について	誤答/わからない	22.2%	16.7%	<0.01	13.1%	12.0%	0.63	25.2%	28.5%	15.6%	0.14	0.01	<0.01	0.05
	正答	77.8%	83.3%		86.9%	88.0%		74.8%	71.5%	84.4%				
HIVに関する意識や相談先														
周囲のHIV感染者の有無	いない/いないと思う	67.9%	74.9%	<0.01	45.8%	59.1%	<0.01	69.4%	64.0%	62.4%	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
	わからない	23.5%	19.0%		12.8%	16.6%		21.3%	21.2%	21.3%				
	いる/いると思う	8.6%	6.1%		41.3%	24.3%		9.3%	14.8%	16.3%				
過去6ヶ月間のHIV感染不安経験	まったくなかった/あまりなかった	74.1%	58.7%	<0.01	56.4%	48.6%	0.02	72.6%	50.8%	67.4%	<0.01	0.18	<0.01	<0.01
	よくあった/時々あった	25.9%	41.3%		43.6%	51.4%		27.4%	49.2%	32.6%				
自分の家族へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	56.4%	68.6%	<0.01	77.7%	76.8%	0.76	57.3%	74.1%	51.8%	<0.01	0.19	<0.01	0.01
	できる/できると思う	43.6%	31.4%		22.3%	23.2%		42.7%	25.9%	48.2%				
身近な友達へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	63.8%	70.4%	<0.01	45.5%	67.6%	<0.01	56.8%	57.4%	43.3%	0.81	<0.01	<0.01	0.33
	できる/できると思う	36.2%	29.6%		54.5%	32.4%		43.2%	42.6%	56.7%				
相談場所(電話相談など)の認知	知らない	54.3%	53.7%	0.61	37.2%	42.5%	0.11	57.9%	57.6%	53.2%	0.91	0.26	<0.01	<0.01
	知っている	45.7%	46.3%		62.8%	57.5%		42.1%	42.4%	46.8%				
性感染症および予防行動														
性感染症既往歴	ない	85.6%	79.0%	<0.01	70.8%	69.9%	0.77	69.1%	47.3%	68.8%	<0.01	0.93	<0.01	<0.01
	ある	14.4%	21.0%		29.2%	30.1%		30.9%	52.7%	31.2%				
特定(恋人や夫などの)男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	100.0%	100.0%	-	28.6%	41.7%	0.42*	37.5%	20.0%	51.1%	0.22*	0.92*	-	-
	常用	0.0%	0.0%		20.0%	18.1%		13.0%	14.4%	9.9%				
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	非常用	0.0%	0.0%		51.5%	40.2%		49.5%	65.6%	39.0%				
	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	100.0%	100.0%	-	33.9%	38.2%	0.04*	71.6%	20.7%	68.8%	0.16*	0.33*	-	-
常用	0.0%	0.0%		22.9%	26.6%		6.6%	21.4%	9.2%					
	非常用	0.0%	0.0%		43.2%	35.1%		21.8%	57.9%	22.0%				
特定(恋人や妻などの)女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	53.4%	49.2%	0.68*	80.9%	49.4%	0.74*	100.0%	100.0%	87.9%	-	-	0.49*	0.79*
	常用	15.4%	16.5%		6.7%	17.0%		0.0%	0.0%	2.1%				
非常用	31.2%	34.3%		12.4%	33.6%		0.0%	0.0%	9.9%					
	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	74.1%	39.0%	0.02*	85.0%	48.6%	0.21*	100.0%	100.0%	90.8%	-	-	0.56*	1.00*
常用	9.3%	24.8%		5.1%	20.8%		0.0%	0.0%	1.4%					
	非常用	16.6%	36.2%		9.9%	30.5%		0.0%	0.0%	7.8%				
受診への自信														
多分、行けると思う/多分、行けないと思う/絶対行けない	必ず行く	27.6%	30.1%	0.02	31.3%	25.1%	0.04	23.5%	28.9%	19.9%	0.94	0.32	0.01	0.09
		72.4%	69.9%		68.7%	74.9%		76.5%	71.1%	80.1%				

1) 男性受検者とSW利用男性受検者の2群間のクロス集計における有意差。Pearsonのカイ2乗検定によるp値を示した。
 2) MSM受検者とSW利用MSM受検者の2群間のクロス集計における有意差。Pearsonのカイ2乗検定によるp値を示した。
 3) 女性受検者とSW女性受検者の2群間のクロス集計における有意差。Pearsonのカイ2乗検定によるp値を示した。
 4) 女性受検者とWSW受検者の2群間のクロス集計における有意差。Pearsonのカイ2乗検定によるp値を示した。
 5) 男性受検者とMSM受検者の2群間のクロス集計における有意差。Pearsonのカイ2乗検定によるp値を示した。
 6) SW利用男性受検者とSW利用MSM受検者の2群間のクロス集計における有意差。Pearsonのカイ2乗検定によるp値を示した。

*コンドーム使用状況については、相手別に過去6ヶ月間に膣性交や肛門性交経験がなかった人を除き、経験を有する人のみで有意差を算出した。

表3 男性受検者(n=3,388)における「受診に対する自信」との関連要因

	N	受診に対する自信			調整前 オッズ比	95% 信頼区間		調整後 オッズ比 *	95% 信頼区間	
		絶対 行けない等	必ず行く	1		下限	上限		下限	上限
基本属性										
年齢	24歳以下	639	29.4%	70.6%	1			1		
	25-29歳	720	25.0%	75.0%	1.25	0.98 - 1.59		1.25	0.97 - 1.59	
	30-34歳	659	27.5%	72.5%	1.10	0.87 - 1.40		1.09	0.85 - 1.40	
	35-39歳	506	27.9%	72.1%	1.08	0.83 - 1.40		1.10	0.84 - 1.44	
	40-44歳	339	32.7%	67.3%	0.86	0.65 - 1.14		0.87	0.65 - 1.17	
	45-49歳	203	30.5%	69.5%	0.95	0.67 - 1.34		0.96	0.67 - 1.36	
	50歳以上	322	22.0%	78.0%	1.47	1.08 - 2.02		1.52	1.11 - 2.10	
居住地	該当地域(都道府県)	3,083	27.6%	72.4%	1					
	それ以外の地域	305	26.9%	73.1%	1.04	0.80 - 1.35				
居住形態	いいえ	2,212	28.0%	72.0%	1					
婚姻状況	はい(1人暮らし)	1,176	26.8%	73.2%	1.06	0.91 - 1.25				
	結婚していない	2,235	28.1%	71.9%	1					
健康保険加入状況	結婚している	1,153	26.5%	73.5%	1.08	0.92 - 1.27				
	国民健康保険または職場の健康保険	2,982	27.2%	72.8%	1					
HIV抗体検査受検経験	被扶養者の健康保険	314	29.3%	70.7%	0.90	0.70 - 1.16				
	未加入	92	33.7%	66.3%	0.74	0.47 - 1.14				
HIV抗体検査受検経験	ある(再受検)	1,220	28.3%	71.7%	1					
	ない(初受検)	2,168	27.2%	72.8%	1.06	0.90 - 1.24				
HIVや検査に関する知識										
ウインドウピリオドについて	誤答/わからない	513	28.3%	71.7%	1					
	正答	2,875	27.4%	72.6%	1.04	0.85 - 1.28				
偽陽性の可能性について	誤答/わからない	1,550	26.8%	73.2%	1					
	正答	1,838	28.2%	71.8%	0.94	0.80 - 1.09				
確認検査の必要性について	誤答/わからない	1,015	28.3%	71.7%	1					
	正答	2,373	27.3%	72.7%	1.05	0.89 - 1.24				
重複感染について	誤答/わからない	1,086	26.7%	73.3%	1					
	正答	2,302	28.0%	72.0%	0.94	0.80 - 1.10				
服薬治療について	誤答/わからない	752	29.7%	70.3%	1					
	正答	2,636	27.0%	73.0%	1.14	0.96 - 1.36				
HIVに関する意識や相談先										
周囲のHIV感染者の有無	いない/いないと思う	2,299	28.1%	71.9%	1					
	わからない	797	27.7%	72.3%	1.02	0.85 - 1.22				
	いる/いると思う	292	23.3%	76.7%	1.29	0.97 - 1.71				
過去6ヶ月間のHIV感染不安経験	まったくなかった/あまりなかった	2,512	26.1%	73.9%	1			1		
	よくあった/時々あった	876	31.8%	68.2%	0.76	0.64 - 0.89	0.83	0.70 - 0.99		
自分の家族へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	1,911	35.0%	65.0%	1			1		
	できる/できると思う	1,477	18.0%	82.0%	2.45	2.08 - 2.88	2.18	1.82 - 2.61		
身近な友達へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	2,160	31.7%	68.3%	1			1		
	できる/できると思う	1,228	20.3%	79.7%	1.83	1.55 - 2.16	1.29	1.07 - 1.55		
相談場所(電話相談など)の認知	知らない	1,840	30.2%	69.8%	1			1		
	知っている	1,548	24.4%	75.6%	1.34	1.15 - 1.56	1.37	1.17 - 1.60		
性感染症および予防行動										
性感染症既往歴	ない	2,900	27.8%	72.2%	1					
	ある	488	26.2%	73.8%	1.08	0.87 - 1.35				
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	3,388	27.6%	72.4%	-					
	常用 非常用									
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	3,388	27.6%	72.4%	-					
	常用 非常用									
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	1,808	27.2%	72.8%	1					
	常用	523	25.6%	74.4%	1.08	0.87 - 1.35				
	非常用	1,057	29.2%	70.8%	0.93	0.76 - 1.07				
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	2,511	26.6%	73.4%	1			ns		
	常用 非常用	316 561	32.3% 29.1%	67.7% 70.9%	0.76 0.89	0.59 - 0.98 0.72 - 1.09				

*「仮に検査であなただけがHIVに感染していることがわかったとき、病院に行くことについてどう思いますか？」の質問に対して「必ず行ける」と回答した群を1、「多分、行ける」「多分、行けない」「絶対行けない」と回答した群を0とした従属変数による変数減少法ステップワイズ(Wald)による多重ロジスティック回帰分析。従属変数と各項目間の単回帰分析によって有意差のあったものを独立変数として投入した。 ns;not significant

表4 SW利用男性受検者(n=3,345)における「受診に対する自信」との関連要因

	N	受診に対する自信			調整前 オッズ比	95%信頼区間		調整後 オッズ比 *	95%信頼区間	
		絶対 行けない等	必ず行く			下限	上限		下限	上限
		基本属性								
年齢	24歳以下	412	32.5%	67.5%	1			1		
	25-29歳	677	28.1%	71.9%	1.24	0.95	1.61	1.33	1.01	1.75
	30-34歳	631	31.9%	68.1%	1.03	0.79	1.35	1.15	0.87	1.52
	35-39歳	582	32.3%	67.7%	1.01	0.77	1.32	1.17	0.88	1.56
	40-44歳	373	34.6%	65.4%	0.91	0.68	1.23	1.10	0.81	1.50
	45-49歳	268	26.5%	73.5%	1.34	0.95	1.88	1.50	1.05	2.13
	50歳以上	402	23.4%	76.6%	1.58	1.16	2.15	1.87	1.35	2.59
居住地	該当地域(都道府県)	2,984	29.8%	70.2%	1					
	それ以外の地域	361	33.0%	67.0%	0.86	0.68	1.09			
居住形態	いいえ	2,262	30.2%	69.8%	1					
婚姻状況	はい(1人暮らし)	1,083	29.9%	70.1%	1.01	0.87	1.19			
	結婚していない	1,983	31.2%	68.8%	1					
健康保険加入状況	結婚している	1,362	28.6%	71.4%	1.13	0.97	1.32			
	国民健康保険または職場の健康保険	3,125	30.0%	70.0%	1					
HIV抗体検査受検経験	被扶養者の健康保険	176	31.8%	68.2%	0.92	0.66	1.27			
	未加入	44	34.1%	65.9%	0.83	0.44	1.55			
HIV抗体検査受検経験	ある(再受検)	1,538	30.2%	69.8%	1					
	ない(初受検)	1,807	30.0%	70.0%	1.01	0.87	1.17			
HIVや検査に関する知識										
ウインドウピリオドについて	誤答/わからない	374	30.5%	69.5%	1					
	正答	2,971	30.1%	69.9%	1.02	0.81	1.29			
偽陽性の可能性について	誤答/わからない	1,464	28.3%	71.7%	1					
	正答	1,881	31.5%	68.5%	0.86	0.74	1.00			
確認検査の必要性について	誤答/わからない	982	31.6%	68.4%	1					
	正答	2,363	29.5%	70.5%	1.10	0.94	1.30			
重複感染について	誤答/わからない	814	29.6%	70.4%	1					
	正答	2,531	30.3%	69.7%	0.97	0.82	1.15			
服薬治療について	誤答/わからない	559	35.1%	64.9%	1			1		
	正答	2,786	29.1%	70.9%	1.32	1.09	1.59	1.27	1.04	1.56
HIVに関する意識や相談先										
周囲のHIV感染者の有無	いない/いないと思う	2,504	30.3%	69.7%	1					
	わからない	637	30.8%	69.2%	0.98	0.81	1.18			
	いる/いると思う	204	25.5%	74.5%	1.27	0.92	1.76			
過去6ヶ月間のHIV感染不安経験	まったくなかった/あまりなかった	1,964	28.9%	71.1%	1					
	よくあった/時々あった	1,381	31.9%	68.1%	0.87	0.75	1.01			
自分の家族へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	2,295	36.1%	63.9%	1			1		
	できる/できると思う	1,050	17.0%	83.0%	2.75	2.29	3.30	2.39	1.97	2.89
身近な友達へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	2,356	34.5%	65.5%	1			1		
	できる/できると思う	989	19.7%	80.3%	2.14	1.79	2.56	1.70	1.40	2.06
相談場所(電話相談など)の認知	知らない	1,796	33.2%	66.8%	1			1		
	知っている	1,549	26.5%	73.5%	1.38	1.19	1.61	1.32	1.13	1.54
性感染症および予防行動										
性感染症既往歴	ない	2,642	31.2%	68.8%	1			1		
	ある	703	26.0%	74.0%	1.29	1.07	1.55	1.27	1.04	1.54
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	3,345	30.1%	69.9%	-					
	常用 非常用									
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	3,345	30.1%	69.9%	-					
	常用 非常用									
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	1,646	32.6%	67.4%	1			1		
	常用	551	27.2%	72.8%	1.29	1.05	1.60	1.37	1.09	1.70
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	常用	1,148	27.9%	72.1%	1.25	1.06	1.48	1.22	1.03	1.45
	非常用	1,304	31.7%	68.3%	1					
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	829	30.2%	69.8%	1.07	0.89	1.30			
	常用 非常用	1,212	28.4%	71.6%	1.17	0.99	1.06			

*「仮に検査であなたがHIVに感染していることがわかったとき、病院に行くことについてどう思いますか?」の質問に対して「必ず行ける」と回答した群を1、「多分、行ける」「多分、行けない」「絶対行けない」と回答した群を0とした従属変数による変数減少法ステップワイズ(Wald)による多重ロジスティック回帰分析。従属変数と各項目間の単回帰分析によって有意差のあったものを独立変数として投入した。

表5 MSM受検者(n=1,471)における「受診に対する自信」との関連要因

	N	受診に対する自信			調整前 オッズ比	95%信頼区間		調整後 オッズ比 *	95%信頼区間	
		絶対 行けない等	必ず行く	1		下限	上限		下限	上限
基本属性										
年齢	24歳以下	319	37.9%	62.1%	1			1		
	25-29歳	305	35.7%	64.3%	1.10	0.79	1.52	0.96	0.67	1.38
	30-34歳	258	29.8%	70.2%	1.44	1.01	2.04	1.07	0.72	1.60
	35-39歳	234	25.6%	74.4%	1.77	1.22	2.57	1.36	0.90	2.05
	40-44歳	162	26.5%	73.5%	1.69	1.12	2.56	1.33	0.83	2.12
	45-49歳	81	29.6%	70.4%	1.45	0.86	2.46	1.04	0.59	1.85
	50歳以上	112	24.1%	75.9%	1.92	1.18	3.14	1.83	1.08	3.13
居住地	該当地域(都道府県)	1,313	31.5%	68.5%	1					
	それ以外の地域	158	29.7%	70.3%	1.09	0.76	1.56			
居住形態	いいえ	780	32.8%	67.2%	1					
	はい(1人暮らし)	691	29.7%	70.3%	1.16	0.93	1.45			
婚姻状況	結婚していない	1,367	31.0%	69.0%	1					
	結婚している	104	35.6%	64.4%	0.81	0.54	1.24			
健康保険加入状況	国民健康保険または職場の健康保険	1,230	29.2%	70.8%	1			1		
	被扶養者の健康保険	169	42.6%	57.4%	0.56	0.40	0.77	0.63	0.43	0.92
	未加入	72	41.7%	58.3%	0.58	0.36	0.94	0.54	0.33	0.91
HIV抗体検査受検経験	ある(再受検)	1,066	28.7%	71.3%	1			1		
	ない(初受検)	405	38.3%	61.7%	0.65	0.51	0.83	0.80	0.62	1.05
HIVや検査に関する知識										
ウインドウピリオドについて	誤答/わからない	140	30.0%	70.0%	1					
	正答	1,331	31.5%	68.5%	0.93	0.64	1.36			
偽陽性の可能性について	誤答/わからない	509	32.6%	67.4%	1					
	正答	962	30.7%	69.3%	1.09	0.87	1.38			
確認検査の必要性について	誤答/わからない	301	34.9%	65.1%	1					
	正答	1,170	30.4%	69.6%	1.23	0.94	1.60			
重複感染について	誤答/わからない	367	32.7%	67.3%	1					
	正答	1,104	30.9%	69.1%	1.09	0.84	1.40			
服薬治療について	誤答/わからない	192	39.6%	60.4%	1			1		
	正答	1,279	30.1%	69.9%	1.52	1.11	2.08	1.27	0.91	1.77
HIVに関する意識や相談先										
周囲のHIV感染者の有無	いない/いないと思う	674	34.0%	66.0%	1					
	わからない	189	36.0%	64.0%	0.92	0.65	1.28			
	いる/いると思う	608	27.0%	73.0%	1.39	1.10	1.77			
過去6ヶ月間のHIV感染不安経験	まったくなかった/あまりなかった	830	29.3%	70.7%	1					
	よくあった/時々あった	641	34.0%	66.0%	0.80	0.64	1.00			
自分の家族へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	1,143	36.0%	64.0%	1			1		
	できる/できると思う	328	15.2%	84.8%	3.12	2.26	4.32	2.70	1.92	3.79
身近な友達へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	669	41.0%	59.0%	1			1		
	できる/できると思う	802	23.3%	76.7%	2.28	1.82	2.86	1.81	1.43	2.30
相談場所(電話相談など)の認知	知らない	547	39.1%	60.9%	1			1		
	知っている	924	26.7%	73.3%	1.76	1.41	2.21	1.58	1.24	2.01
性感染症および予防行動										
性感染症既往歴	ない	1,041	32.6%	67.4%	1					
	ある	430	28.4%	71.6%	1.22	0.95	1.56			
特定(恋人や夫などの)男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	420	31.9%	68.1%	1					
	常用	294	28.6%	71.4%	1.17	0.85	1.62			
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	非常用	757	32.1%	67.9%	0.99	0.77	1.28			
	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	498	30.9%	69.1%	1					
常用	337	27.0%	73.0%	1.21	0.89	1.64				
	非常用	636	34.0%	66.0%	0.87	0.68	1.12			
特定(恋人や妻などの)女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	1,190	31.1%	68.9%	1					
	常用	99	35.4%	64.6%	0.83	0.54	1.27			
非常用	182	30.8%	69.2%	1.02	0.72	1.42				
	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	1,250	31.8%	68.2%	1					
常用	75	29.3%	70.7%	1.13	0.68	1.88				
	非常用	146	28.1%	71.9%	1.20	0.82	1.75			

*「仮に検査であなただけがHIVに感染していることがわかったとき、病院に行くことについてどう思いますか？」の質問に対して「必ず行ける」と回答した群を1、「多分、行ける」「多分、行けない」「絶対行けない」と回答した群を0とした従属変数による変数減少法ステップワイズ(Wald)による多重ロジスティック回帰分析。従属変数と各項目間の単回帰分析によって有意差のあったものを独立変数として投入した。

表6 SW利用MSM受検者(n=259)における「受診に対する自信」との関連要因

	N	受診に対する自信			調整前 オッズ比	95% 信頼区間		調整後 オッズ比 *	95% 信頼区間	
		絶対 行けない等	必ず行く			下限	上限		下限	上限
基本属性										
年齢	24歳以下	28	32.1%	67.9%	1					
	25-29歳	39	20.5%	79.5%	1.84	0.61	5.57			
	30-34歳	59	20.3%	79.7%	1.86	0.67	5.12			
	35-39歳	48	33.3%	66.7%	0.95	0.35	2.56			
	40-44歳	34	26.5%	73.5%	1.32	0.44	3.95			
	45-49歳	20	25.0%	75.0%	1.42	0.39	5.14			
	50歳以上	31	19.4%	80.6%	1.97	0.60	6.51			
居住地	該当地域(都道府県)	232	22.8%	77.2%	1			1		
	それ以外の地域	27	44.4%	55.6%	0.37	0.16	0.84	0.38	0.16	0.90
居住形態	いいえ	154	29.9%	70.1%	1			1		
婚姻状況	はい(1人暮らし)	105	18.1%	81.9%	1.93	1.05	3.53	2.07	1.07	3.99
	結婚していない	193	24.4%	75.6%	1					
健康保険加入状況	結婚している	66	27.3%	72.7%	0.86	0.46	1.62			
	国民健康保険または職場の健康保険	242	23.6%	76.4%	1			1		
HIV抗体検査受検経験	被扶養者の健康保険	6	83.3%	16.7%	0.06	0.01	0.54	0.08	0.01	0.76
	未加入	11	27.3%	72.7%	0.82	0.21	3.20	0.70	0.17	2.93
HIV抗体検査受検経験	ある(再受検)	164	24.4%	75.6%	1					
	ない(初受検)	95	26.3%	73.7%	0.90	0.51	1.61			
HIVや検査に関する知識										
ウインドウピリオドについて	誤答/わからない	18	33.3%	66.7%	1					
	正答	241	24.5%	75.5%	1.54	0.55	4.29			
偽陽性の可能性について	誤答/わからない	90	25.6%	74.4%	1					
	正答	169	24.9%	75.1%	1.04	0.58	1.87			
確認検査の必要性について	誤答/わからない	49	22.4%	77.6%	1					
	正答	210	25.7%	74.3%	0.84	0.40	1.75			
重複感染について	誤答/わからない	53	17.0%	83.0%	1					
	正答	206	27.2%	72.8%	0.55	0.25	1.20			
服薬治療について	誤答/わからない	31	38.7%	61.3%	1					
	正答	228	23.2%	76.8%	2.09	0.95	4.57			
HIVに関する意識や相談先										
周囲のHIV感染者の有無	いない/いないと思う	153	26.1%	73.9%	1					
	わからない	43	34.9%	65.1%	0.66	0.32	1.36			
	いる/いると思う	63	15.9%	84.1%	1.88	0.87	4.04			
過去6ヶ月間のHIV感染不安経験	まったくなかった/あまりなかった	126	24.6%	75.4%	1					
	よくあった/時々あった	133	25.6%	74.4%	0.95	0.54	1.67			
自分の家族へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	199	27.1%	72.9%	1					
	できる/できると思う	60	18.3%	81.7%	1.66	0.80	3.42			
身近な友達へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	175	29.7%	70.3%	1			1		
	できる/できると思う	84	15.5%	84.5%	2.31	1.18	4.53	2.12	1.03	4.36
相談場所(電話相談など)の認知	知らない	110	29.1%	70.9%	1					
	知っている	149	22.1%	77.9%	1.44	0.82	2.54			
性感染症および予防行動										
性感染症既往歴	ない	181	26.0%	74.0%	1					
	ある	78	23.1%	76.9%	1.17	0.63	2.18			
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	108	18.5%	81.5%	1			ns		
	常用	47	40.4%	59.6%	0.34	0.16	0.72			
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	非常用	104	25.0%	75.0%	0.68	0.35	1.32			
	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	99	18.2%	81.8%	1			1		
常用	69	40.6%	59.4%	0.33	0.16	0.66	0.34	0.16	0.72	
	非常用	91	20.9%	79.1%	0.84	0.41	1.73	0.74	0.35	1.58
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	128	21.1%	78.9%	1					
	常用	44	31.8%	68.2%	0.57	0.27	1.23			
非常用	87	27.6%	72.4%	0.70	0.37	1.32				
	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	126	22.2%	77.8%	1					
常用	54	24.1%	75.9%	0.90	0.43	1.91				
	非常用	79	30.4%	69.6%	0.66	0.35	1.24			

*「仮に検査であなたがHIVに感染していることがわかったとき、病院に行くことについてどう思いますか?」の質問に対して「必ず行ける」と回答した群を1、「多分、行ける」「多分、行けない」「絶対行けない」と回答した群を0とした従属変数による変数減少法ステップワイズ(Wald)による多重ロジスティック回帰分析。従属変数と各項目間の単回帰分析によって有意差のあったものを独立変数として投入した。ns;not significant

表7 女性受検者(n=3,731)における「受診に対する自信」との関連要因

	N	受診に対する自信			調整前 オッズ比	95% 信頼区間		調整後 オッズ比 *	95% 信頼区間	
		絶対 行けない等	必ず行く	1		下限	上限		下限	上限
基本属性										
年齢	24歳以下	1,204	25.4%	74.6%	1			ns		
	25-29歳	1,034	21.5%	78.5%	1.25	1.02	1.52			
	30-34歳	675	22.8%	77.2%	1.15	0.92	1.44			
	35-39歳	356	24.7%	75.3%	1.04	0.79	1.36			
	40-44歳	255	24.3%	75.7%	1.06	0.78	1.45			
	45-49歳	110	22.7%	77.3%	1.16	0.73	1.84			
	50歳以上	97	19.6%	80.4%	1.40	0.83	2.35			
居住地	該当地域(都道府県)	3,475	23.3%	76.7%	1					
	それ以外の地域	256	25.8%	74.2%	0.88	0.65	1.17			
居住形態	いいえ	2,608	23.2%	76.8%	1					
	はい(1人暮らし)	1,123	24.2%	75.8%	0.94	0.80	1.11			
婚姻状況	結婚していない	2,932	23.6%	76.4%	1					
	結婚している	799	22.9%	77.1%	1.04	0.87	1.25			
健康保険加入状況	国民健康保険または職場の健康保険	2,713	22.2%	77.8%	1			1		
	被扶養者の健康保険	911	26.0%	74.0%	0.81	0.68	0.97	0.83	0.69	0.99
	未加入	107	33.6%	66.4%	0.56	0.37	0.85	0.61	0.40	0.93
HIV抗体検査受検経験	ある(再受検)	1,330	21.5%	78.5%	1			1		
	ない(初受検)	2,401	24.6%	75.4%	0.84	0.72	0.99	0.84	0.71	1.00
HIVや検査に関する知識										
ウインドウピリオドについて	誤答/わからない	511	22.7%	77.3%	1					
	正答	3,220	23.6%	76.4%	0.95	0.76	1.19			
偽陽性の可能性について	誤答/わからない	1,982	24.2%	75.8%	1					
	正答	1,749	22.7%	77.3%	1.09	0.93	1.26			
確認検査の必要性について	誤答/わからない	1,174	25.6%	74.4%	1			1		
	正答	2,557	22.5%	77.5%	1.19	1.01	1.40	1.07	0.90	1.27
重複感染について	誤答/わからない	1,294	22.7%	77.3%	1					
	正答	2,437	23.9%	76.1%	0.94	0.80	1.10			
服薬治療について	誤答/わからない	940	27.9%	72.1%	1			1		
	正答	2,791	22.0%	78.0%	1.37	1.16	1.62	1.38	1.15	1.65
HIVに関する意識や相談先										
周囲のHIV感染者の有無	いない/いないと思う	2,590	24.2%	75.8%	1					
	わからない	794	22.3%	77.7%	1.11	0.92	1.34			
	いる/いると思う	347	21.0%	79.0%	1.20	0.91	1.57			
過去6ヶ月間のHIV感染不安経験	まったくなかった/あまりなかった	2,708	21.4%	78.6%	1			1		
	よくあった/時々あった	1,023	28.9%	71.1%	0.67	0.57	0.79	0.70	0.59	0.83
自分の家族へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	2,139	29.9%	70.1%	1			1		
	できる/できると思う	1,592	14.9%	85.1%	2.44	2.06	2.88	2.14	1.80	2.54
身近な友達へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	2,119	28.1%	71.9%	1			1		
	できる/できると思う	1,612	17.4%	82.6%	1.85	1.58	2.17	1.60	1.36	1.89
相談場所(電話相談など)の認知	知らない	2,162	26.0%	74.0%	1			1		
	知っている	1,569	19.9%	80.1%	1.41	1.21	1.65	1.27	1.08	1.50
性感染症および予防行動										
性感染症既往歴	ない	2,579	23.9%	76.1%	1					
	ある	1,152	22.5%	77.5%	1.08	0.92	1.28			
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	1,400	24.5%	75.5%	1					
	常用	485	22.7%	77.3%	1.11	0.87	1.41			
	非常用	1,846	22.9%	77.1%	1.09	0.93	1.29			
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	2,671	23.3%	76.7%	1					
	常用	246	26.8%	73.2%	0.83	0.62	1.12			
	非常用	814	23.0%	77.0%	1.02	0.85	1.23			
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	3,731	23.5%	76.5%	-					
	常用									
	非常用									
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	3,731	23.5%	76.5%	-					
	常用									
	非常用									

*「仮に検査であなただけがHIVに感染していることがわかったとき、病院に行くことについてどう思いますか？」の質問に対して「必ず行ける」と回答した群を1、「多分、行ける」「多分、行けない」「絶対行けない」と回答した群を0とした従属変数による変数減少法ステップワイズ(Wald)による多重ロジスティック回帰分析。従属変数と各項目間の単回帰分析によって有意差のあったものを独立変数として投入した。ns;not significant

表8 SW女性受検者(n=425)における「受診に対する自信」との関連要因

基本属性	N	受診に対する自信			調整前 オッズ比	95% 信頼区間		調整後 オッズ比 *	95% 信頼区間	
		絶対 行けない等	必ず行く			下限	上限		下限	上限
基本属性										
年齢	24歳以下	188	30.3%	69.7%	1					
	25-29歳	107	22.4%	77.6%	1.51	0.87	2.61			
	30-34歳	59	37.3%	62.7%	0.73	0.40	1.35			
	35-39歳	34	23.5%	76.5%	1.41	0.60	3.31			
	40-44歳	16	31.3%	68.8%	0.96	0.32	2.88			
	45-49歳	12	33.3%	66.7%	0.87	0.25	3.01			
50歳以上	9	33.3%	66.7%	0.87	0.21	3.60				
居住地	該当地域(都道府県)	404	29.2%	70.8%	1					
	それ以外の地域	21	23.8%	76.2%	1.32	0.47	3.69			
居住形態	いいえ	255	28.2%	71.8%	1					
	はい(1人暮らし)	170	30.0%	70.0%	0.92	0.60	1.41			
婚姻状況	結婚していない	376	28.7%	71.3%	1					
	結婚している	49	30.6%	69.4%	0.91	0.48	1.75			
健康保険加入状況	国民健康保険または職場の健康保険	265	30.2%	69.8%	1					
	被扶養者の健康保険	125	26.4%	73.6%	1.21	0.75	1.94			
	未加入	35	28.6%	71.4%	1.08	0.50	2.36			
HIV抗体検査受検経験	ある(再受検)	207	24.6%	75.4%	1					
	ない(初受検)	218	33.0%	67.0%	0.66	0.43	1.01			
HIVや検査に関する知識										
ウインドウピリオドについて	誤答/わからない	70	27.1%	72.9%	1					
	正答	355	29.3%	70.7%	0.90	0.51	1.60			
偽陽性の可能性について	誤答/わからない	243	28.4%	71.6%	1					
	正答	182	29.7%	70.3%	0.94	0.62	1.44			
確認検査の必要性について	誤答/わからない	139	28.8%	71.2%	1					
	正答	286	29.0%	71.0%	0.99	0.63	1.55			
重複感染について	誤答/わからない	95	31.6%	68.4%	1					
	正答	330	28.2%	71.8%	1.18	0.72	1.93			
服薬治療について	誤答/わからない	121	28.9%	71.1%	1					
	正答	304	28.9%	71.1%	1.00	0.63	1.59			
HIVに関する意識や相談先										
周囲のHIV感染者の有無	いない/いないと思う	272	27.9%	72.1%	1					
	わからない	90	34.4%	65.6%	0.74	0.44	1.23			
	いる/いると思う	63	25.4%	74.6%	1.14	0.61	2.13			
過去6ヶ月間のHIV感染不安経験	まったくなかった/あまりなかった	216	27.3%	72.7%	1					
	よくあった/時々あった	209	30.6%	69.4%	0.85	0.56	1.30			
自分の家族へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	315	34.9%	65.1%	1			1		
	できる/できると思う	110	11.8%	88.2%	4.00	2.15	7.47	3.94	2.09	7.43
身近な友達へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	244	34.0%	66.0%	1			1		
	できる/できると思う	181	22.1%	77.9%	1.82	1.17	2.82	1.50	0.95	2.36
相談場所(電話相談など)の認知	知らない	245	32.7%	67.3%	1			1		
	知っている	180	23.9%	76.1%	1.55	1.00	2.39	1.66	1.06	2.60
性感染症および予防行動										
性感染症既往歴	ない	201	30.8%	69.2%	1					
	ある	224	27.2%	72.8%	1.19	0.78	1.81			
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	85	29.4%	70.6%	1					
	常用	61	18.0%	82.0%	1.89	0.85	4.23			
	非常用	279	31.2%	68.8%	0.92	0.54	1.56			
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	88	26.1%	73.9%	1					
	常用	91	23.1%	76.9%	1.18	0.60	2.33			
	非常用	246	32.1%	67.9%	0.75	0.43	1.29			
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	425	28.9%	71.1%	-					
	常用									
	非常用									
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	425	28.9%	71.1%	-					
	常用									
	非常用									

*「仮に検査であなたがHIVに感染していることがわかったとき、病院に行くことについてどう思いますか?」の質問に対して「必ず行ける」と回答した群を1、「多分、行ける」「多分、行けない」「絶対行けない」と回答した群を0とした従属変数による変数減少法ステップワイズ(Wald)による多重ロジスティック回帰分析。従属変数と各項目間の単回帰分析によって有意差のあったものを独立変数として投入した。

表9 WSW 受検者(n=141)における「受診に対する自信」との関連要因

	N	受診に対する自信			調整前 オッズ比	95% 信頼区間		調整後 オッズ比 *	95% 信頼区間	
		絶対 行けない等	必ず行く	1		下限	上限		下限	上限
基本属性										
年齢	24歳以下	55	29.1%	70.9%	1					
	25-29歳	29	10.3%	89.7%	3.56	0.94	13.43			
	30-34歳	24	25.0%	75.0%	1.23	0.41	3.67			
	35-39歳	15	6.7%	93.3%	5.77	0.70	47.40			
	40-44歳	12	8.3%	91.7%	4.51	0.54	37.91			
	45-49歳	4	0.0%	100.0%	-					
50歳以上	2	50.0%	50.0%	0.41	0.02	6.97				
居住地	該当地域(都道府県)	135	20.0%	80.0%	1					
	それ以外の地域	6	16.7%	83.3%	1.25	0.14	11.15			
居住形態	いいえ	93	18.3%	81.7%	1					
	はい(1人暮らし)	48	22.9%	77.1%	0.75	0.32	1.77			
婚姻状況	結婚していない	123	21.1%	78.9%	1					
	結婚している	18	11.1%	88.9%	2.14	0.46	9.93			
健康保険加入状況	国民健康保険または職場の健康保険	95	14.7%	85.3%	1			1		
	被扶養者の健康保険	40	27.5%	72.5%	0.46	0.19	1.12	0.42	0.16	1.09
	未加入	6	50.0%	50.0%	0.17	0.03	0.94	0.21	0.03	1.35
HIV抗体検査受検経験	ある(再受検)	69	18.8%	81.2%	1					
	ない(初受検)	72	20.8%	79.2%	0.88	0.39	2.02			
HIVや検査に関する知識										
ウインドウピリオドについて	誤答/わからない	9	22.2%	77.8%	1					
	正答	132	19.7%	80.3%	1.17	0.23	5.94			
偽陽性の可能性について	誤答/わからない	71	22.5%	77.5%	1					
	正答	70	17.1%	82.9%	1.41	0.61	3.24			
確認検査の必要性について	誤答/わからない	37	18.9%	81.1%	1					
	正答	104	20.2%	79.8%	0.92	0.36	2.39			
重複感染について	誤答/わからない	46	15.2%	84.8%	1					
	正答	95	22.1%	77.9%	0.63	0.25	1.62			
服薬治療について	誤答/わからない	22	27.3%	72.7%	1					
	正答	119	18.5%	81.5%	1.65	0.58	4.71			
HIVに関する意識や相談先										
周囲のHIV感染者の有無	いない/いないと思う	88	20.5%	79.5%	1					
	わからない	30	26.7%	73.3%	0.71	0.27	1.85			
	いる/いると思う	23	8.7%	91.3%	2.70	0.58	12.60			
過去6ヶ月間のHIV感染不安経験	まったくなかった/あまりなかった	95	14.7%	85.3%	1			1		
	よくあった/時々あった	46	30.4%	69.6%	0.40	0.17	0.92	0.52	0.21	1.30
自分の家族へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	73	27.4%	72.6%	1			1		
	できる/できると思う	68	11.8%	88.2%	2.83	1.15	6.96	3.10	1.21	7.95
身近な友達へのHIVや性感染症に関する相談可能性	できない/できないと思う/わからない	61	24.6%	75.4%	1					
	できる/できると思う	80	16.3%	83.8%	1.68	0.73	3.86			
相談場所(電話相談など)の認知	知らない	75	25.3%	74.7%	1					
	知っている	66	13.6%	86.4%	2.15	0.90	5.15			
性感染症および予防行動										
性感染症既往歴	ない	97	23.7%	76.3%	1					
	ある	44	11.4%	88.6%	2.42	0.86	6.87			
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	72	20.8%	79.2%	1					
	常用	14	21.4%	78.6%	0.97	0.24	3.90			
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	非常用	55	18.2%	81.8%	1.18	0.49	2.89			
	過去6ヶ月間に男性と性交経験なし	97	18.6%	81.4%	1					
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	常用	13	15.4%	84.6%	1.25	0.26	6.15			
	非常用	31	25.8%	74.2%	0.66	0.25	1.70			
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	124	20.2%	79.8%	1					
	常用	3	33.3%	66.7%	0.51	0.44	5.80			
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	非常用	14	14.3%	85.7%	1.52	0.32	7.21			
	過去6ヶ月間に女性と性交経験なし	128	20.3%	79.7%	1			ns		
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況	常用	2	0.0%	100.0%	0.80	0.73	0.87			
	非常用	11	18.2%	81.8%	1.15	0.23	5.63			

*「仮に検査であなたがHIVに感染していることがわかったとき、病院に行くことについてどう思いますか?」の質問に対して「必ず行ける」と回答した群を1、「多分、行ける」「多分、行けない」「絶対行けない」と回答した群を0とした従属変数による変数減少法ステップワイズ(Wald)による多重ロジスティック回帰分析。従属変数と各項目間の単回帰分析によって有意差のあったものを独立変数として投入した。 ns;not significant